

町商工会等の関係各所と協議検討を進めて参ります。まずは、S-

Lab4th(境町地域産業研究開発拠点施設)の指定管理者である株式会社まちづくり公社が、商工会で令和3年に町内の飲食店等で組織した「さかい河岸みやげ研究会」に働きかけをして、町内の希望する飲食店への販売提供をしていきたい考えであります。また、労働時間が短くなることで輸送能力が不足し「物が運べなくなる」可能性が懸念されている、物流の2024年問題が喫緊の課題となっておりますので、町といえまでもこれらの課題に寄与すべく、株式会社まちづくり公社と共に、S-Lab4th(境町地域産業研究開発拠点施設)が関東一円の新たな鰻の物流拠点となるべく取り組んでまいります。

(秘書公室長)

## 議席2番

染谷 直人 議員



### 森戸地区の振興策について

**Q** 先般、エビ養殖事業者が森戸地区を視察したと聞いたが、検討状況および今後の展望について、町の考えを伺いたい。

**A** 当町の官民連携の先進的な取組として自治体や民間企業も視察などに多数訪れておりますが、今般、当町の取組に共感した民間企業より、クルマエビの養殖など水産資源の研究開発や生産を行っている事業者の紹介があり、本年6月に橋本町長が東京都杉並区にある生産拠点を視察し懇談したところ、当該事業者より境町で主体的に事業をぜひとも行いたい、との申し出がありました。これを受け、当町では遊休施設の活用や地域経済の活性化、さらには水産資源の保全に向けた取組が子どもたちへの教育にも前向きな効果が期待されるなど、幅広い面から有益であるなど判断し、利用可能な施設を調査し、事業者が視察したところ、旧葉山幼稚園の園舎が最適であり活用したいとの話がありました。本件は町からの持ち出しはなく、むしろ園舎を貸与し活用していただく賃料収入が見込まれる事業であることに加え、事業者からはクルマエビ以外の魚種の名前も挙

がっているところですが、焦ることなく、しっかりと1つ1つハードルを越え、水産資源を活用した地域活性化にもつなげたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

(町長・企画部長)

### 資産運用について

**Q** 昨年度の当町の公金運用実績について、伺いたい。

**A** 公金運用前の令和4年10月末日における当町の基金は、境町財政調整基金はじめ25基金、総額39億4,685万3,891円あり、そのうち6・4%の2億5,453万3,972円が定期預金、残り93・6%の36億9,231万9,919円が普通預金として管理し、利子は年間5万2,967円という低金利で運用しておりました。

その後、令和4年第4回議会定例会一般質問において、染谷議員からの提案を受け、ペイオフ等の金融リスクに備え、確実かつ有利な方法での基金の運用するため同年12月に境町公金管理運用委員会を設置し、境町公金管理方針及び境町資金管理計画を策定、同

委員会の決定に基づき、令和5年3月に政府保証債1億円(利率0・614%、年間の利子収入61万4千円)、令和5年4月に利付国庫債券5千万円(利率0・5%、年間の利子収入25万円)を購入しました。合計すると1億5千万円の公金運用に対して、年間86万4千円、満期までの総額960万7,165円の利子収入が得られる見込みです。

(町長・企画部長)

**Q** 町出資の企業等において、資金運用を始めることも資金効率や価値の保全に寄与するものと考え、町の考えを伺いたい。

**A** 現在、町が出資している企業3社のうち、事業収益を得て業績が好調に推移している㈱さかいまちづくり公社からは2億円、茨城さかいソーラー㈱からは、1千7百万円(会社設立当初からの9年間合計で1億6,062万円の寄付金)を昨年度はいただいております。

「町出資の企業等においての資産運用」について、現在は、企業の事業収益を寄付金として町に還元いただいておりますが、事業収益の一部を資産運用として活用することは、可能だと思われます。例